

全体構想の推進に向けた新たな提案について

「新たな提案」の趣旨

これまで個々のワーキング等において検討されてきた事項に加え、分野横断的かつ、下記のような視点をもった取り組みを実施することにより、生態系ネットワーク事業の推進力をさらに高めていきたい。

「新たな提案」における視点(案)

- 斐伊川水系の自然の価値や保全・再生活動に対する、源流から河口に至る流域全体での認知度の向上や理解の醸成
- 協議会委員をはじめ、多様な主体(事業者、民間団体、行政など)が「当事者」となり生態系ネットワークに取り組む機運の醸成

具体的な事業案(詳細は次ページ以降)

提案1 : 流域の魅力とつながりを学ぶ、小学校での水鳥環境学習の展開

提案2 : (仮称)「斐伊川水系 エコネットクラブ」の開催

提案3 : 地域の生息環境づくり等の取り組みを支える体制づくりについて

提案1：流域の魅力とつながりを学ぶ、小学校での水鳥環境学習の展開

概要：

斐伊川水系の恵まれた自然環境やその自然環境を守る取り組みの大切さを、小学校の子どもたちに知ってもらい、気付きや行動の変化につなげていく。子どもから家族に、地域全体に、環境学習の効果の波及をねらう。

斐伊川水系が源流から河口部までつながっていること、上流の水や土地の使い方が下流の社会や環境に影響をもたらしたり、下流の経済活動が上流に影響を与えたりすることを、流域の多くの人に知ってもらうことを目的に、まず2021年度は、斐伊川水系上流の学校を対象に環境学習を展開予定。

あわせて協議会の愛称・シンボルマークについて、投票を呼びかける。

内容(1～2時限程度。学校と調整しプログラムを確定させる)：

- 1 斐伊川水系の自然環境の特徴について(講師：東京都市大学 涌井史郎)
- 2 水鳥をシンボルとした環境づくりと地域づくりについて(講師：未定)
- 3 中下流からのメッセージ(web会議システムにより、下流域の環境学習施設等からメッセージをもらう)
- 4 参加企画「斐伊川水鳥の羽毛奉納」
 - ・ 白地の紙に単色で描いた大きな水鳥の絵(モチーフはハクチョウ)を用意し、学校に掲示する。
 - ・ 子どもたちに付せん紙を渡し、自分の名前と、生態系ネットワークの形成に取り組む人たちへのメッセージ等を書いてもらい、絵に貼り付けてもらう。付せん紙は多数色を用意。
 - ・ できあがった絵はメッセージとして関係施設等で披露したのち、水鳥にゆかりのある神社などに奉納。(終了後、愛称・シンボルマークの投票実施、授業の感想、今後の行動について子供たちにレポートを書いてもらう)

開催の流れ：

<2021年度>

- ・ 斐伊川水系の上流域の小学校にて、1回を予定。
- ・ 開催結果を整理し、協議会等の場で報告。

<2022年度以降>

- ・ 圏域の環境学習施設・団体と連携し、教育機関における環境学習の展開について働きかけを継続して行う。

その他：

- ・ 事前に奥出雲町教育委員会担当者と打ち合わせを実施し、上記プログラムを提案。
- ・ 展開の可能性について、引き続き教育委員会と検討を進める。

提案2 : (仮称)「斐伊川水系 エコネットクラブ」の開催

概要:

斐伊川水系の恵まれた自然環境を、大型水鳥という切り口で紹介し、その環境を守る取り組みについて理解を深めてもらい、将来的に、環境づくりや地域づくりの担い手となってもらうことを目指した連続講座を定期的開催。

対象は小学生、およびその家族。学校などを通じて公募。

内容(1回につき半日程度):

- 1 8月:水はどこからくるの?
(場所:奥出雲町等 斐伊川水系の源流を現地視察し、川の働きについて学ぶ)
2. 10月:ハクチョウがやってきた!
(場所:米子市 座学および現地視察で、はるばるシベリアから渡ってきたハクチョウ類を観察し、この地にハクチョウ類がやってくる理由を学ぶ)
3. 1月:水鳥たちはなぜ斐伊川を選ぶの?
(場所:出雲市 斐伊川本川やガン類、ハクチョウ類等を観察し、その特徴的な環境と水鳥の生態について学ぶとともに、水鳥を活用した観光振興など、地域づくりへの展開についても学ぶ)
4. 3月:まとめ
(場所:雲南市 コウノトリの巣作りを観察しつつ、1年間学んだことを振り返る)

開催に向けて:

<2021年度>

- ・ 環境学習ワーキング等を通じて、プログラムの内容や実施時期について意見交換。

<2022年度以降>

- ・ 教育委員会等を通じて公募。
- ・ 実施状況や結果は随時報告。

その他:

- ・ 移動手段の確保や広報について、圏域の企業に支援を募る

提案3：学校教育で使える、「斐伊川水系の自然の魅力」を伝える教材の作成・提供

概要：

斐伊川水系の自然環境の魅力や、その環境を守る取り組み、大切さを地域に伝える取り組みを動画とし、地域の環境学習で利用可能な教材として提供できるようにする。

動画のほか、動画作成に使用する、斐伊川水系の環境やそれを象徴する大型水鳥等の生き物の写真等を整理し、環境学習の推進を目的とする団体等に提供できるようにする。

内容：

作成が考えられる動画の事例は、以下が考えられる。各テーマにあわせ、協議会委員やワーキング参加者、その他生態系ネットワーク形成の取り組みの賛同者等のコメントも挿入を予定。

1 タイトル「斐伊川水系の生態系ネットワークとは？」

大型水鳥類を指標とする、河川を軸とした生態系ネットワークについて、「なぜこの取り組みをしているのか」、「なぜ大型水鳥なのか」、「どんな人が関わっているのか」等の疑問にも答えるかたちで解説。

2 タイトル「斐伊川ってどんな川？」

斐伊川水系生態系ネットワークの軸となる斐伊川水系について、「水害と防災」「利用」「環境」という側面から歴史を追って紹介。

3 タイトル「水辺の生きものを調べてみよう」

河川（自然再生事業予定地等）や水田・水路にはどんな生き物がいるか、（見つかった）生き物が地域に生息していることがどんな意味を持つのか、専門家の指導・案内のもと、用いる道具の紹介もまじえながら、動画で紹介。

実現に向けて：

<2021年度>

- ・ 愛称・シンボルマークの一般投票を呼びかけるために用いることを想定し動画を作成、公開。

<2022年度以降>

- ・ 動画作成に用いた写真やスライドを整理し、動画とあわせて外部に提供可能な体制を構築。
- ・ 続き動画の企画・作成を継続し、別途整理した写真等とあわせ、随時公開。

提案4：地域の生息環境づくり等の取り組みを支える体制づくりについて

背景と課題

- ・ 大型水鳥類の生息環境づくりに向け、自然環境の保全・再生・創出が進められている。
 - 国管理河川では、自然再生計画の検討を進めている。
斐伊川河口出島地先における土砂投入など、一部では、維持管理の中で、自然再生に寄与する取り組みも試行している。
- ・ 他方、事業等により整備された環境は、時間の経過とともに質が変化するケースが考えられ、環境整備の目標に沿わなくなる場合もある。
 - 良好な環境を維持するための管理作業が必要。
 - しかし、土地の管理者や地権者だけでは十分に環境を維持できないおそれ。



斐伊川河口出島地先における土砂投入

生息環境づくりに負の影響を与える質の変化(一例)



整備された良好な自然環境



アレチウリ(特定外来生物)

外来種の導入・定着



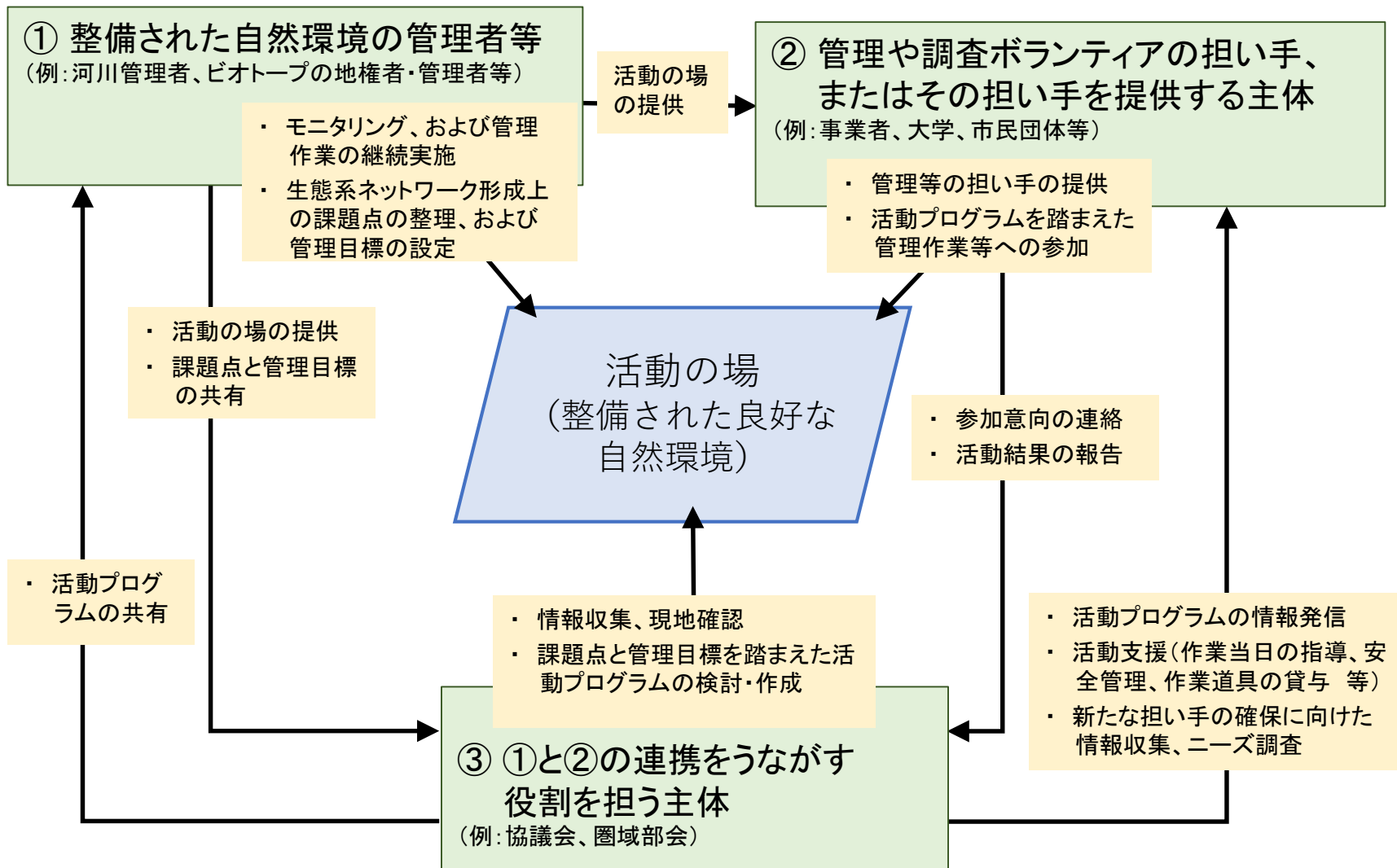
植生が発達(遷移)

- ・ また、整備された環境が目標に沿うかたちで機能していくためには、継続的なモニタリングが必要。
 - 管理者等が行うモニタリング調査を補完する位置づけで、調査ボランティア等の活用も効果的。

対応策のイメージ

前項で挙げた課題の対応策として、取り組みを支える体制づくりのイメージを、以下に示す。

このうち、③を担う団体について、検討を進めていく必要がある。



参考: 斐伊川水系において環境保全活動に取り組む事業者の事例

<p>名称</p>	<p>ヨシ刈り取りボランティア事業</p>	<p>浚渫窪地の環境修復事業、天神川の水草刈り活動</p>
<p>活動場所</p>	<p>宍道湖</p>	<p>中海</p>
<p>主体</p>	<p>宍道湖水環境協議会</p>	<p>NPO法人 自然再生センター</p>
<p>参加団体</p>	<p>JR西日本旅客鉄道(株)米子支社出雲保線区、(株)スター精機出雲工場、(株)ネスター島根工場、(福)島根ライトハウス、(公財)島根県環境保健公社、(株)山陰合同銀行、(特非)さくらおろち、(一社)島根県損害保険代理業協会、オリエンタル白石(株)、(株)報光社、(株)フクダ、(株)トーワエンジニアリング、大福工業(株)、(株)竹田製作所、西日本高速道路パトロール中国(株)松江基地、まつえ環境市民会議、(株)イトハラ水産、ニシオ(有)マツダオートザム出雲ひらた、サンイン技術コンサルタント(株)、斐伊川神戸川安全協議会、宍道湖漁業協同組合、第一建設(株) 他</p>	<p>中国電力(株)</p>
<p>内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> 宍道湖のヨシを刈り取って湖外へ持ち出し、ヨシが吸収した窒素やリンが湖に戻らないようにすることで水質浄化へつなげる取り組み 冬季に刈ることにより4月には新芽が効果的に成長することを促し、ヨシ帯の健全な保全、育成を行っている 平成25年度から継続して実施 <div data-bbox="492 953 909 1265" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="564 1276 765 1309" data-label="Caption"> <p>刈り取りの様子</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 「石炭灰造粒物(通称Hiビーズ)」で浚渫窪地に溜まったヘドロを覆う実験(覆砂実験) 中海再生の窪地埋め戻しで硫化水素や栄養塩の溶出を削減し、水底質が改善され赤貝の養殖が可能となる環境の回復 <div data-bbox="1277 953 1765 1265" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1379 1272 1649 1303" data-label="Caption"> <p>Hiビーズ投入の様子</p> </div>